

# 「共謀罪」ではテロ防げない

無職

(兵庫県 79)

期限に拘束すると強化された。05年のロンドン同時多発テロを受け、翌年にはさらに改正され、「テロを賛美、奨励すること」も犯罪であると規定された。だが、司法からは、相次ぐ改正・強化に欧州人権条約に反すると判断された。それでも、今なおロンドン中心部でテロが相次いでいる。

イラクでは、米国など有志連合による北部モスルの過激派組織「イスラム国」(IS)からの奪還作戦が行われている。英国も軍事作戦をしてきた。追い詰められたISは欧米でのテロを呼びかけている。軍事でのテロ根絶は不可能だ。

2000年に制定された英国のテロ対策法「テロリズム法」は01年の米同時多発テロ後に改正され、外国籍容疑者を出国するまで無

# 戦争生きた者黙っておれぬ

無職

(大阪府 81)

17歳の投書「『共謀罪』反対 私は行動する」(6日)に励まされた。私は敗戦を9歳で迎えた。苦しい戦争の間から抜け出し、8月の青空がとてもまぶしかった。それまでは毎朝校庭で整列し、白い手袋をはめた校長先生が教育勅語をうやうやしく手にして私たちに暗唱させ、「お国のために死ぬこと」が当然の教育だった。

戦争が終わって、それまでの教科書に墨を塗り、旧文部省が発行した「あたらしい憲法のはなし」を手にした。先生は「みなさんは個性を持ちなさい。自分の意見を

言っているのです」と言った。それまでは自分の意見を言うことなどとてもないことで、みんなとまどった。

今度の「共謀罪」法案は、あの時代に国民を引き戻す悪法だと思ふ。戦前、国民の思想、内心を徹底的に弾圧した治安維持法を「適法に制定された」と語る金田勝年法相にはあせんとした。あの戦争に反省のない人たちが、この国を動かそうとしているのは、大変危険なことだ。

国民の声を封殺し、憲法と民主主義が壊されようとしている。戦前戦後を生きた者として黙っては

個性を持ちなさい。自分の意見を

いられない。